

【柴胡】

柴胡（さいこ）を最も重要な生薬として配合された方剤を柴胡剤といい、漢方治療の代表的な薬方です。病名的には、カゼのこじれた時期をはじめ、活動性肝炎や慢性腎炎などに与えられます。

柴胡はセリ科植物の根（根茎）で、生薬の百科事典といわれる本草綱目（ほんぞうこうもく）には「柴胡は山中に生じ、若いときはゆでて食用にし、老ゆれば柴（しば）とする。従って地上部は芸高、山菜、茄草とよばれ、根は柴胡と名づけて薬用にす」と述べられています。

漢方的には、熱が出たりひいたりする時、肋骨弓下の抵抗の強い状態あるいは体力の消耗を目標に与えられます。

柴胡に含まれる有効成分はサイコサポニン、サボゲニンと考えられ、薬理作用は、中枢抑制作用、解熱鎮痛作用、抗炎症作用があります。脂質代謝においても、血清コレステロールや中性脂肪の低下が認められます。こうした肝蛋白合成促進作用、肝グリコーゲン増加作用などは、柴胡が肝疾患に有効であることを示唆するものです。